

委員会行政視察実施報告書

(視察箇所ごとに作成、行数は任意で追加)

委員会名	議会運営委員会
参加委員 ◎委員長 ○副委員長	◎齋藤仁一　○蛭川靖弘　矢吹哲哉　小島雄一　菊地とも子　田中雅人 伊藤弘明　佐原正秀　渡部勇一（議長）

1 本市の課題と視察の目的

決算の審査方法について先進事例を調査し、本市の決算審査の更なる充実を図ることを目的とする。

2 実施概要

実施日時	視察先	静岡県沼津市議会
令和5年1月12日（水） 13時30分～15時	担当部局	議会事務局
視察項目	予算・決算委員会に関する委員会のあり方、審査方法について	
報告内容	(1) 予算・決算常任委員会における審査方法について ア 委員の構成について 4常任委員会（総務・文教産業・民生病院・建設水道のうち1つ）と、2常任委員会（一般会計予算決算・特別会計企業会計予算決算のうち1つ）の2つの常任委員会の委員になることを委員会条例で定めている。 2常任委員会の構成に当たっては、4常任委員会の委員構成及び会派等を考慮して調整している。また、2常任委員会の任期は1年とし、最初に一般会計予算決算委員会の委員になった者は、翌年は特別会計企業会計予算決算委員会の委員になることとしている。 イ 審査の流れについて 審査の流れは、4常任委員会と同様。 ①委員会付託 ⇒ ②委員会審査 ⇒ ③採決 ⇒ ④本会議にて委員長報告 ⇒ ⑤委員長報告に対する質疑・討論 ⇒ ⑥採決 (2) その他 議会運営に関する取組状況について ○会議録作成・検索システム 平成16年6月定例会から、「議会議事録作成支援システム」を導入し、音声認識技術を用いて、本会議、全員協議会及び委員会の会議録を調製している。 また、平成18年11月定例会から、会議録の調製までを自動化する会議録作成システムと会議記録検索システムを統合したシステムの運用を開始し、会議録の	

	作成を専門業者に委託せず、版下校正まで事務局職員の手で行うことで、経費の削減、会議録の迅速な調製に努めている。 ○本会議映像配信システム 平成 20 年 10 月から本会議映像配信システムを導入し、同年 11 月定例会から本会議の生中継及び録画中継をインターネット上で配信している。 また、平成 30 年 9 月からマルチデバイス対応の本会議映像配信システムを採用し、スマートフォンやタブレット端末での視聴も可能としている。 ○政務活動費の領収書公開 さらなる透明性の確保と情報公開に向け、平成 30 年 10 月から、政務活動費の領収書等をホームページ上で公開している。 ○正副議長選挙に係る立候補制及び所信表明の実施 「議長選挙及び副議長選挙に係る立候補及び所信表明実施要領」を平成 31 年 3 月に議会運営委員会で決定し、令和元年 5 月の第 1 回臨時会から実施している。 ○タブレット端末の全議員一斉導入 ICT の活用による議会・議員活動の充実や効率化を図り、市民福祉の向上・市勢の発展に資するため、令和元年 7 月からタブレット端末を導入している。 ○委員会におけるオンライン会議の実施に向けた条例改正 新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大と、令和 2 年 4 月 30 日付けの総務省通知を受け、コロナ禍においても委員会運営が行えるよう、令和 3 年 3 月に会議規則及び委員会条例の一部改正を行った。 ○委員会会議記録のインターネット公開 さらなる透明性の確保と情報公開に向け、令和 3 年 6 月から、本会議会議記録に加え、委員会会議記録を会議記録検索システムに掲載している。
考 察 (まとめ)	全議員が一般会計予算決算委員会及び特別会計予算決算員会のいずれか委員になることとされており、予算・決算審査の実施方法の 1 つの事例として検討できる取組と感じた。 その他、会議録の作成を外部委託せず、すべて職員の手で調製していることや災害や感染症のまん延等に対応するため、オンライン会議の実施に向けた条例改正を行う等、本市議会においても参考とすべき特徴的な取組が行われていると感じた。

※視察先の写真、資料等の添付